

# 三ガク「岳・楽・学」都のまちづくり ～松本ヘルスバレーの挑戦～

美しく生きる。



健康寿命延伸都市・松本



国宝松本城

平成27年4月24日

長野県松本市

- 長野県のほぼ中央に位置
- 人口:24.2万人(県内2位 H27.4値)
- 面積:978.47km<sup>2</sup>(県内1位)
- 老年人口割合:26.0%(県平均29.2% H26.10値)
- 製造品出荷額等:4,601億円(県内2位 H25値)

## 「三ガク都」のまちづくり

山岳のまち「岳」都



上高地

音楽のまち「楽」都



サイトウ・キネン・オーケストラ

学問のまち「学」都



重文 旧開智学校

## 超少子高齢型人口減少社会におけるまちづくりの都市戦略

### 健康寿命延伸都市の創造

「健康」を、20年・30年後を見据えた「活力ある超高齢社会の源」と捉える

市民一人ひとりが自立し、健やかに暮らし健康寿命を延伸することであり、世界に先駆けた超少子高齢型人口減少社会における最も基本的な姿である。

#### <「健康」な地域の具体的な姿>

- ① 要介護・寝たきりの人が少ない  
⇒ 予防医療、生活習慣病の改善
- ② 孤立した市民が少ない  
⇒ 社会的な絆の充実
- ③ 活動的な生活を送る人の割合が高い  
⇒ アクティブシニアの活躍

#### <基本方向>

健康時から終末時期まで、継続的なケアが担保され、安心して暮らし続けることのできるまちづくり

## 共通価値の創造 = 新しい市場の創造

### 社会的課題解決

- ・健康増進
- ・疾病予防
- ・医療費の削減
- ・生活の質の向上
- ・ソーシャルキャピタルの形成  
(社会的な絆、地域社会との絆)

+

### 経済的利益

- ・運動、食、生活習慣の改善
- ・検診、バイタルデータのチェック
- ・生活習慣改善への介入
- ・ICT化、軽量化、小型化、新素材の活用
- ・孤立化の防止、コミュニケーションツールの開発

= 共通価値の創造  
松本ヘルスバレー

健康な市民が暮らし、その人々に磨かれた産業が定着、  
健康に関する情報、投資、人が集まる健全な地域循環

# これまでの取組例

健康に関する情報、投資、人が集まる健全な地域循環に向けて、「生き甲斐づくり」、「健康づくり」、「産業創出」等の既存ストック・取組を生かしながら実践

## <生き甲斐づくり>

- ・市内各地区に「地域づくりセンター」を設置。住民の地域づくりを積極的に支援
- ・元気なシニア世代の社会貢献活動等を支援する窓口を設置

## <健康づくり・地域福祉>

- ・市内35地区に、健康・福祉・子育ての拠点「福祉ひろば」を整備。住民主体の健康づくりの場として活用。

## <健康産業の創出>

- ・公的保険外の健康産業の創出のため、松本地域健康産業推進協議会を設置。民間事業者、大学等と連携しながら、新産業創出を推進

⋮

既存ストック・取組を活用

## <取組例>



福祉ひろばにて、企業が開発した「カラオケシステムを活用した健康運動プログラム教室」を開催



高齢者自らが健康になるとともに、健康づくり、地域づくり、産業の担い手になることを期待

## 松本市の将来人口動態推計について（減少率・高齢化率）

項目	長野市	上田市	飯田市	松本市	備考
20～39歳の 女性人口 (減少率※)	43.0%	46.1%	43.9%	29.9%	日本創成会議 公表値
総人口 (減少率※)	24.1%	28.0%	29.2%	15.2%	日本創成会議 公表値
0～4歳の 人口 (減少率※)	40.0%	41.0%	37.1%	31.9%	国立社会保 障・人口問題 研究所公表値
高齢化率 (H26.10.1現在)	27.6%	28.8%	30.6%	26.0%	長野県 公表値

※ 長野県内の主な都市の2010年と2040年を比較

# 松本市のまちづくり構想について



# 都市の再構築へ向けた「都市計画の基本的な考え方」

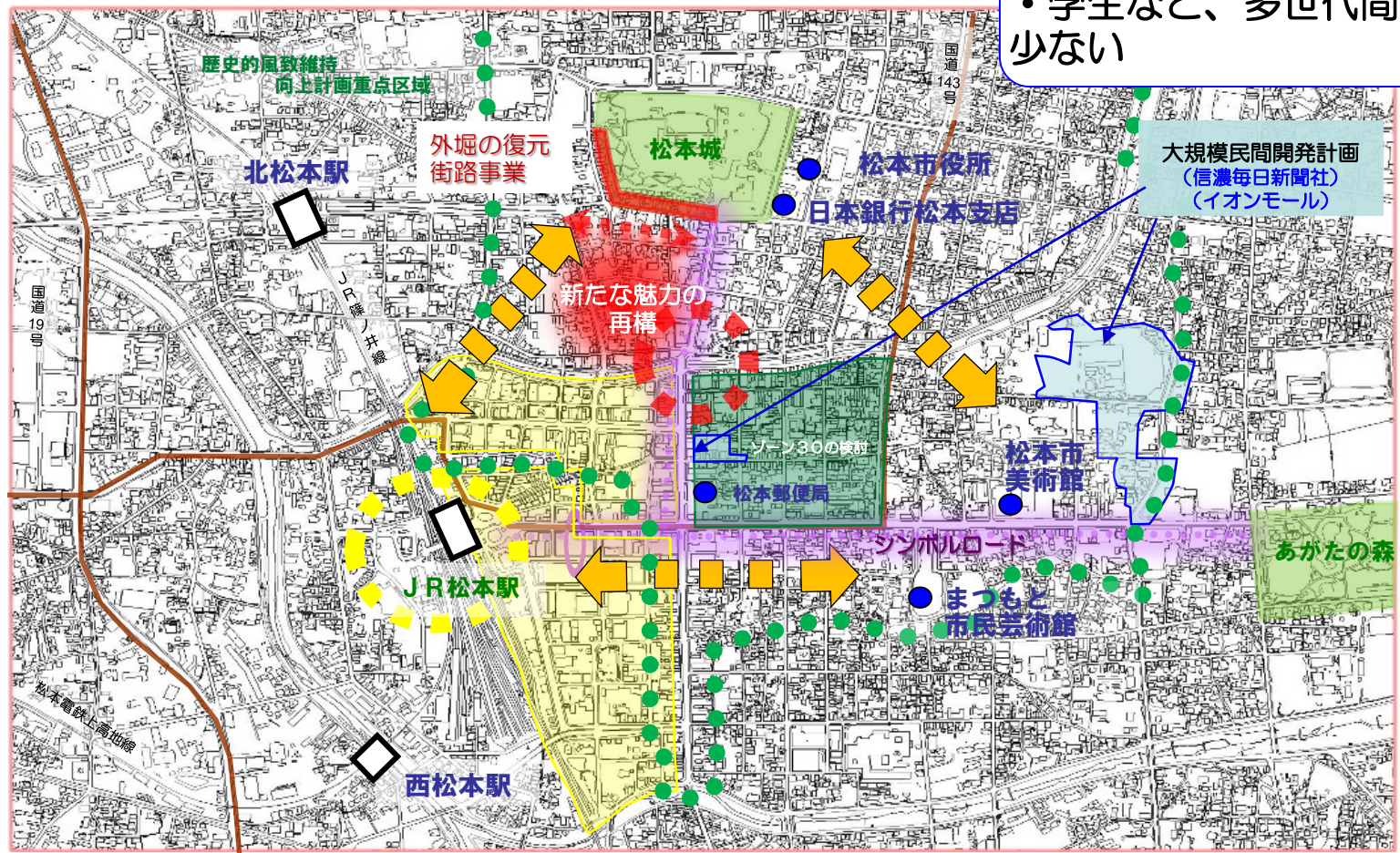
松本市は「ゆとりと活気にあふれる、自然共生都市」をめざし、中心市街地や鉄道駅周辺などの利便性の高いエリアへの人口誘導を図り、「**集約型都市構造への転換**」を推進



**歩いて暮らせるコンパクトシティの具体化へ**

## 現状

- 市街地が郊外へ無秩序に拡大
- 中心市街地は、人口減少と少子高齢化が急速に進展
- 中心市街地は、職住近接の商店街が衰退し、スプロール化
- 学生など、多世代間の交流の場が少ない





## 【課題】

- ・松本城南西外堀復元事業に伴う住民の集団転居
- ・中心市街地の人口減少、少子高齢化による衰退

## 【暮らし続けたい人たちが望むこと】

### 「城のまちとして失ったもの」を復元

賑わい・人の往来、住民、生活、訪れる人、商店・飲食店、仕事、娯楽など、**都市としてのコミュニティの確保**

## 【活性化のキーワード】

### 城のまちとしての「風格・風情・風流」、そして大学連携

- ・健やかに自立し、安心して暮らし続ける「まち」の実現

## ◆類型化

### (1) 近隣転居型

地域コミュニティの維持

### (2) コンパクトシティ型

郊外から街なか居住への展開

### (3) 地方移住型

城下町に居住する「価値」を提供

大学生の受入れなど多世代交流の実現

◆市総合計画、次世代交通政策など、既存計画・事業との整合  
中心市街地のまちづくりコンセプト「歩いて暮らせるまちづくり」  
⇒ 「車優先から人優先へ」:都市空間の再配分

# 想定されるモデル地区～松本城三の丸 まちづくり～

～ 松本城の正面 手が加えられていない エリア ～  
民間活力を誘導しながら、街の魅力向上

- ・都市型居住地としての位置づけの整理
- ・街や界隈の趣を活かす方策の検討
- ・内環状北線やお城の見える通りなど、そぞろ歩きの舞台となる通りのイメージ化



松本城

南・西外堀の復元

内環状北線整備

●●● そぞろ歩きの舞台となる主要な通り



「松本城を中心としたまちづくり」

松本城郭「三の丸」の大名町～西堀間の界隈における魅力あるまちづくり



歴史ある街割りや景観を尊重し、市民や松本城を訪れる観光客のそぞろ歩きの舞台や、街や界隈の雰囲気を楽しめ、土地の味・人・歴史に触れる空間を創出する。

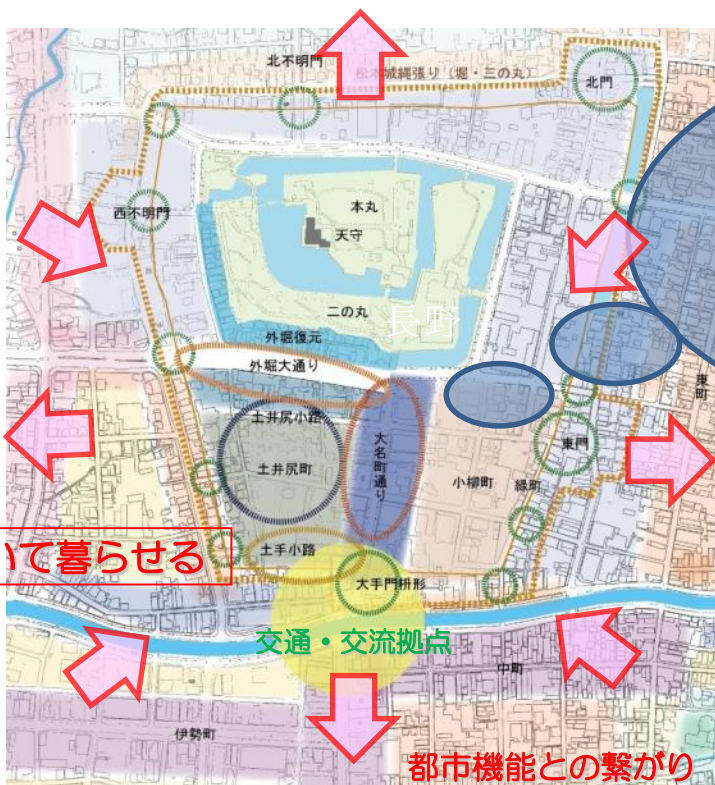
松本城三の丸地区

都市のへそ



## 三の丸だからこそその可能性・・・ ～ 創出されるアクティビティ ～

地域の中心として変遷・残された歴史・空洞化からの再生



**中心市街地の核・・・**  
**まちなかの多様で高質な可能性**

- ・ビジネス・健康産業・担い手
- ・商業観光・情報発信
- ・学びや文化交流スペース
- ・次世代交通の結節点

### ■三の丸■

＜歩いて暮らせる

「人が主役」のまちづくり＞

～人優先の都市空間への転換～  
次世代交通政策・健康増進・交流促進

### ■効果■

＜人の感覚に心地よい空間＞

- ・住む、働く、訪れる人の増加
- ・コミュニケーションの活性化
- ・多様な世代がお互い支え合う生活



### ■松本ヘルスバレーの構築■

＜生きがいの仕組みづくり＞

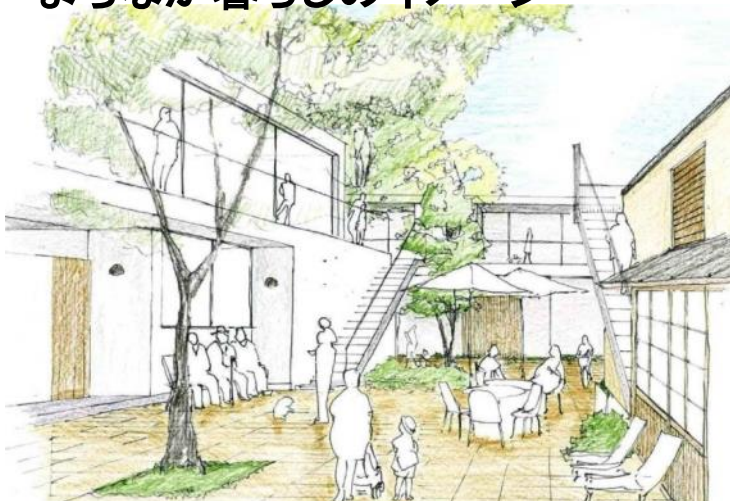
- ・すべての人が健康に関心を持ち
- ・アクティブで自立的な生活を支援

## 三の丸だからこその暮らし・・・コミュニティーデザイン

### ～ 交流が生まれる「まちなか居住」～

居心地の良い空間・多様な交流（世代、目的）・顔の見える暮らし

#### まちなか暮らしのイメージ



「交流の風景」 パブリックスペースの充実



#### ＜インセンティブの創出＞

- ・歩いて暮らせるまちづくり
- ・歴史文化が感じられる「風格」あるまち



歩行者と自動車と共存できる  
歩者融合型の道路





## まずは、まちづくり構想の理解を深めることから着手

- 1 一般市民に向けて  
まちづくり構想について普及・啓発
- 2 地域住民や有識者、民間事業者、行政の連携  
まちづくり構想の具体化に向け検討
- 3 基本方針となる「ガイドライン」の策定を検討  
「都市計画の基本的な考え方」をベースに、まちづくり構想に関する制度的課題・規制等を整理。  
産業振興・雇用創出、地域コミュニティの活性化など、まちの機能のあり方を示す。